

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 壹番館)

事業所番号	671700284		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム さくらんぼ		
所在地	山形県東根市大字野田1924番地		
自己評価作成日	平成 23 年 8 月 15 日	開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、家庭的な雰囲気を大切に、入居者様一人一人が様々な場面で能力を最大限に発揮できるような支援を心掛けています。また、職員は介護者ではなく生活のパートナーとして信頼関係を築きながら、安心して生活していただけるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 23 年 9 月 6 日	評価結果決定日	平成 23 年 10 月 7 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園が広がる自然豊かな環境に立地している本施設は、小学校が隣接し、いつも子供たちの元気な声が聞こえてくる。敷地内には同一法人が運営する介護老人保健施設があり、グループホームは3つのユニットからなっている。建物は和風の佇まいで落ち着いた雰囲気があり、その造りは広くゆとりのある構造となっている。家庭的で明るい雰囲気があり、利用者の穏やかで楽しげな表情からその満足感が窺える。法人の理念を基に事業所独自の理念を掲げ、地域との繋がりを大切にしながら、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう管理者と職員が一丸となって質の高いサービスを目指し努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を理解し、グループホームとしての役割を反映した理念がある。また、理念に対する意識を高める為に、全体の会議などで話し合いを持っている。	本年度は法人の理念を基にグループホーム独自の理念を作成した。この理念を玄関に掲示したり、職員一人ひとりのネームプレートの裏に入れて持ち歩いたりすることで日々意識し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に一般住宅はないが、地区の小学校の相撲大会を見学したり、スポーツフェスティバルや文化祭等の地域行事に参加している。また、地区と災害時相互応援協力協定を結び協力関係を築いている。	隣接する小学校の運動会や相撲大会を見学したり、地域の文化祭には作品を出品し、事業所のコーナーを設けてもらい展示している。また、小学校や保育園の子どもたちが訪ねて来てくれる。更に、地区と災害時相互応援協力協定を結び、双方向の協力関係を築き地域の一員として交流を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行い、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、サービス内容等について報告しながら、参加者よりでた意見、要望等について検討しながら経過を報告し、サービスの向上に努めている。	利用者代表、家族代表、地域代表、市職員や施設の代表者等が参加して2ヶ月に1回開催されている。家族代表は交代で参加してもらい参加者が偏らないよう配慮している。活動の報告のみならず参加者から意見や要望が出される双方向的な話し合いが行われそれらをサービスの質向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者から委員になっていただき、また、施設長が地域包括支援センター介護認定審査会の委員を務めており、情報交換を行いながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者の運営推進会議への出席時や介護認定更新調査時等を利用して担当者との情報交換を行っている。また、事業所の取り組みや状況、疑問点等を問い合わせる等、日常的に交流を持ち協力関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>研修を開催したり、委員会を設置して拘束についての正しい理解を深めるように努めており、拘束は行っていない。</p>	<p>身体拘束についての研修会を実施し、身体拘束の内容やその弊害を全職員が理解し身体拘束をしないケアを実践している。また、原則夜間以外は玄関やテラスには施錠は行わず、外出願望のある利用者に対しては、声掛けや見守りを工夫し寄り添いを基本に対応している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会を開催したり、部門会、委員会活動を通じて話し合いの機会を持ち、啓蒙に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、制度を必要とする事例はないが、関心か低くないよう、研修会を開催し、制度の理解を深めるよう努めている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>必ず文書で分かりやすく説明をしており、同意の上で契約の締結、解約を行っている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設けており、入居時に活用についても説明している。また、利用者様やご家族様にアンケートを実施したり意見箱を設置している。頂いた意見、苦情についてはその都度、報告し合い、解決に向けた検討を行っている。</p>	<p>面会時や運営推進会議の時に意見や要望を伺っている。また、利用者や家族が意見や要望を出しやすい環境を作ることに配慮しており、意見箱の設置や、年に1回家族に対してアンケートを実施している。それら集計結果を公表し、出された意見や要望を職員にも報告し運営に反映させている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的な全体会議を実施し、職員の意見が反映する体制を確立している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所全体で働きやすい職場環境の構築に取り組んでいる。(男女生き生き、子育て応援宣言企業として認定)また、年2回の評価制度の実施や年末賞で頑張っている人を表彰し、やりがいを持って働けるよう努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対し定期的な研修の機会を設けて教養にあたっている。研修後は、報告書を提出し、情報がスタッフ間で共有できるようにしている。	職員を年間計画に基づき法人の全体研修、グループホームの部門研修に参加させ育成している。また外部研修は職員の経験や力量に応じて出席できるよう調整している。参加者には報告書を提出させ職員間で確認し、情報共有を行っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協会に加入して定期的な研修や交換実習に参加し、交流を深めている。また、報告書を通して課題等を全職員が共有し、ケアの質の向上に励んでいる。	グループホーム協会に加入し、研修会や交換実習に職員を派遣している。他、事業所との交流を深めると共に参加職員の報告書を通して得られた情報や知識を全職員が共有し、サービスの質の向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談等を行い、生活状態やニーズを把握するように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯について、十分に話を聞く機会を設けご家族様のニーズを把握するように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人様やご家族様の状況、意向を確認し適切な支援ができるよう提案している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を持った対応を心掛け、毎日の食事作りや昔なからの行事、習わし事などについて教えてもらったり、助けてもらいながら、共に支えあう場面が多くもてるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に情報交換を行い、コミュニケーションを図りながら、協力関係が築けるように努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人や友人とも継続的に交流が図れるよう、ご家族様の協力を得て外出したり、訪問依頼等、連絡を取り持つなどの支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の人間関係を把握し、関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。特にお茶の時間は、入居者様同士ではなかなか会話がはずまない為、職員が話題を提供し、場の雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、家族様からの連絡に応じて、相談対応等を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方は、ご家族様から情報を得たり、言葉や表情から思いや希望を汲み取れるように関わりを持っている。	入居前に利用者や家族から意向を確認すると共に、日々のかかわりや会話の中からも把握するように努めている。意思疎通の困難な方には日常の言動や行動から希望や要望を汲み取り、また家族から情報を収集して利用者本位の対応を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時にご家族やご本人様に聞き取りをしている。また、それまで関わってきたケアマネジャーとも情報交換を行い把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活習慣を理解するとともに、日々の生活の中での気づきが多く得られるように観察し、全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングやケアカンファレンスを行い、気づきを大切に介護計画の作成を心掛けている。また、ご家族様の意向を確認しながら、変化に応じ臨機応変に見直しを行なっている。	3ヶ月に1回モニタリングを実施している。家族からは面会時に伺った要望や意見を参考にし、また、担当者を中心に職員間で話し合いを行い意見やアイデアを出し合っている。それを基に、介護計画作成担当者が随時、または認定更新時に利用者の状態に即した介護計画を作成している。	家族の意見の反映が記録として残り、次の計画に反映されるような仕組み作りを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常生活の様子を記録しており、食事量・水分量・排泄チェック等も細かく記録し、全ての職員が情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様やご家族様の希望に応じて、随時ボランティアの受け入れを行っている。また、年1回、消防署にも協力していただき、避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるように、ご家族様と協力し通院介助を行っている。また、通院が困難な方については、母体の医療機関より定期的に往診にきてもらい、協力体制を築いている。	7割程度の利用者が以前からのかかりつけ医での受診を継続している。通院が困難等の諸事情がある場合は母体医療機関の往診利用も可能である。通院は基本的には家族による同行受診となっているが、状況に応じて通院介助も行っている。受診時には適切な医療を受けられるように受診サマリーを持参し医師との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内にある介護老人保健施設の看護師と連携し、24時間必要な援助が受けられるよう、朝礼での申し送りなど日常的な情報交換に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を提供している。また、可能な限り、面会に行き状態の把握に努め、退院後の支援方法についても情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針を定め、ご家族様に説明・交付している。日常の健康管理や急変時に対応できるよう方針を共有している。また、主治医よりできる限り、訪問診療体制をとってもらえるよう、働きかけている。	契約時に利用者や家族に対し”重度化した場合における対応の指針”を提示し、事業所としてできることできないことを十分に説明し方針共有と理解を得ている。家族・医療機関・事業所の3者間の条件が整った場合のみ看取りを実施しており、現在までに1件の看取り事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル作成をしており、看護師を講師に招き、研修等でシミュレーションを行っている。スタッフ全員が実践力を身に付けているとは言えない為、レベルに応じた研修会の開催を継続的に行なう必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、地域の代表の方にも参加していただいている。非常連絡網、グループ事業所の協力体制の整備や、地域からの理解に努めている。	年2回の避難訓練を実施している。そのうち1回は消防署の協力の下実施されており、また地域代表者や消防団からの協力も得られ、地域との協力関係が築かれている。また、本年の震災後、自家発電装置や照明器具、食糧の備蓄等を行い、有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人一人が、入居者様の人権、人格を尊重するケアの重要性を理解しており、お互いに声掛けしながら、プライバシー保護の徹底に努めている。	職員は利用者を人生の先輩として敬い、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように日常の声かけや行動を意識している。また研修会を実施したり、入職時に職員からプライバシーに関する誓約書を取ったりと徹底した取り組みを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定できる場面を作ったり、意思表示が難しい方には、どちらがいいか等、選択していただき本人の希望に少しでも寄り添えるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、可能な限り希望・要望をくめるように努めている。個人で新聞を取っている入居者様もいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自尊心を傷つけないよう、さりげないフォローを心掛けながら介助を行っている。また、希望時には馴染みの美容院を利用できるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ役割を持ちながら入居者様と職員が共同で食事の準備、片付けをしている。毎回、職員も一緒に食事をしている。また、時々外食をし、好きなメニューを選んで頂いている。食事を目で楽しんでいただけるように、色彩にも気を配り、食事を楽しまるよう工夫している。	メニューは3ユニットが当番で作成し各ユニットで調理されている。食材は職員と利用者が1日おきに近隣スーパーにて買出しを行って調達している。利用者には各々の能力に応じて食事の準備や後片付けを行ってもらい食事自体を楽しめる様に配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を毎日記録し、職員が情報を共有している。また、咀嚼・嚥下の状態に応じて食事の内容を変え、栄養の偏りや、水分不足がおこらないよう支援している。食事が進まない方には、好みのものを提供できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き・うがいの声かけを行い、一人一人の力に応じて介助をしている。義歯は夜間消毒洗浄している。異常発見時は歯科医に相談・受診対応している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握するように努めている。個々に合わせ、随時、声掛け、トイレ誘導を行っている。	排泄チェックシートを作成し、利用者それぞれの排泄パターンを把握している。それを基に利用者の様子の変化を見逃さないよう声がけし、トイレへ誘導することで、利用者がトイレでの排泄ができるように支援している。現在、日中のオムツ利用者はいない等、成果が表れている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	研修会でも便秘のリスクを取り上げて理解に努め、個々に合った対応を心掛けている。食物繊維や乳製品を取り入れた献立作りに配慮している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意向を確認し、希望があれば毎日入浴を楽しんでいただいております。拒否が強い方でも最低週2回は入浴を実施できるようにしている。	利用者の希望に応じて入浴できるよう配慮されている。季節に応じて入浴剤を使ったり、公衆浴場に出かけたりと入浴自体を楽しめるような取り組みを行っている。参番館ではリフト浴が可能で介護度の高い利用者でも入浴できる設備が整っている。入浴を拒否する利用者にはその理由を理解した上で外出後等に入浴を促す等の工夫をしております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、照明や空調管理を心がけ、安眠や休息を支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに個々の服薬情報を管理し、変更等があった場合は職員間で情報を共有し、経過観察と状態把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや洗濯物干しなどそれぞれの力を発揮できるように場面作りをし、常に感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、創作活動や歌など希望に添った楽しみの支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換やストレス発散の為、希望時は散歩に出掛けていただいている。帰居時間を確認したり、後方から見守りを行い安全面に配慮している。また、可能な方には食材購入の為、1日おきにスーパーへ外出し、買い物を日課としている。	利用者の状態や天候に応じて、ウッドデッキや施設の畑等の近隣への散歩や買出し、ゴミ出し等を活用して外気浴や日光浴を日常的に行っている。また季節に応じて外泊や外出を行ったりお盆のお墓参り等家族の協力を得て行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の協力を得て少額のお金を持っている人もいます。また、可能な方には、買物時に本人が支払いできるように支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて電話を利用したり、葉書が出せるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気に配慮し、四季を感じれるような装飾物を工夫している。また、こまめな換気や定期的な温度・湿度チェックを行い、心地よく過ごせるよう配慮をしている。	広くゆったりとした、木目の和風の色調に統一された共用空間は畳スペースや掘りごたつも備え、家庭的で落ち着いた雰囲気を醸し出している。各ユニットには吹き抜け状の中庭があり、自然光を取り入れやすい作りとなっていて柔らかな光が差し込んでいる。共用空間の設備一つ一つが利用者の使い勝手を考えて作られており、派手さはないが居心地良く過ごせる作りとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室に掘り炬燵、テレビ前にソファ、テラスにベンチを置き、好きなように過ごしていただけるような空間作りを心がけている。個々の合わせ好みの場所にイスを移動し落ち着いて過ごせる場所の提供に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みの物(鏡台や仏壇)を持ち込んでいただいたり、写真を飾ったりして、安心して過ごして頂ける配慮をしている。	利用者には仏壇、使い慣れた家具や思い出の写真などを持ち込んでもらい、居心地良く過ごせる部屋作りができる様に配慮がなされている。各居室前には目隠しとしての役割以外に自室の目印になるようにと各々の色の暖簾が掛けられ、利用者への細かな気配りが見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態を見極めながら、スタッフ間で話し合い情報を共有しながら、安全に自立した生活が送れるように、統一した対応を心掛けている。		